

Bengawan Solo ブンガワン・ソロ

グサン・マルトハルトノ (1917-2010) 作詞・作曲のインドネシアの名曲。インドネシア・ジャワ島中部の大河「ソロ川」を歌ったもので、「雨季には水が溢れるが、乾季にはほとんど枯渇してしまう。」「川はソロで生まれ、流れて海に至る。」と雄大な川の自然を讃えています。その自然の不思議さとともに、そこで生きる人々の故郷への思いが歌われています。

曲自体は日本でも以前からよく知られており、歌詞を日本語に訳して松田トシが歌ってヒットしました。<演奏曲集第3集の解説より>

Wikipedia より

ソロ川

ソロ川 (Bengawan solo、Bengawan はジャワ語で大河の意) は、インドネシアのジャワ島中部ジャワ州、東ジャワ州を流れる全長約 540km のジャワ島最長の河川である (流域面積 15,000km² は利根川とほぼ同じ)。その水流は、ジャワ島の東部および北部地域の農地を潤している。また流域は、ジャワ原人の化石が発見された場所であり、ガルーダ・インドネシア航空 421 便不時着事故の事故現場でもある。

ソロ川は、ジャワ島中部火山ラウ山に源を発する。そこから、セウ山を通り、北寄りの方向に流れる。その途中でいくつかの支流が合流している。そのうち マディウン川はかなり大きな川である。マディウン川の合流地点を境に上下流に分けられている。川は、相対的に単調で、スラカルタ (地元では「ソロ」と呼ばれる) を通り、ケンダン丘陵の南側を東流し、ンガウイで北へ向きを変えて、ケンダン丘陵のなかを通り、スラバヤ西方でジャワ海へ注ぐ。



1981 年には、洪水が多発していたので治水の為、日本の有償資金協力によりウオノギリダムが完成した。このダムは、多目的のロックフィルタイプで、発電および農地の灌漑、生活および工業用水、洪水対策に利用されている。しかし、以前ほどではないが、洪水は支流も含めて現在も起こっている。

クロンチョン

クロンチョン (Kroncong) は、インドネシアを代表する大衆音楽のジャンルである。演奏は、男性・女性歌手に伴奏楽器としてフルート、ヴァイオリン、チェロ、ギター、ベース、チャッ、チュッ (弦 3 本の小型ギター) が加わり、打楽器は使用されず、弦楽器だけでリズムを作るのが特徴である。欧米や東アジアのポピュラー音楽が存在感を増しつつある今日のインドネシアの大衆音楽界においても、クロンチョンの人気は依然として高い

演奏曲集第3集の歌詞

BENGAWAN SOLO Riwayat mu ini	ソロ川よ、これがお前の物語
Sedari dulu jadi perhatian insani	昔から人々の注目の的であった
Musim kemarau tak seberapa air mu	乾季にはお前の水はいかほどもなく
Di musim hujan air meluap sampai jauh	雨季には水があふれ はるか彼方にまで達した
Mata air mu dari SOLO	お前の水源はソロから始まっている
Terkurung gunning seribu	幾千の山々に囲まれ
Air mengalir sampai jauh	水ははるか遠くまで流れ
Akhirnya ke laut	ついには海に注ぐ
Itu perahu riwayatnya dulu	あの小舟はお前の歴史そのものだ
Kaum pedagang selalu naik itu perahu	商人たちはいつも その舟に乗っていたものだ

ボニージャックス版の歌詞 緒園涼子作詞

ブンガワンソロ 涯しなく 清き夢を のせ流れ行く
父母も若き日ごろ 共に聞きし愛の調べ
星は移り行き 世の人はかわれど
愛はとこしへに ただひとすじ
ブンガワンソロ 涯しなく 清き夢を のせ流れ行く
星は移り行き 世の人はかわれど
愛はとこしへに ただひとすじ
ブンガワンソロ 涯しなく 清き夢を のせ流れ行く

渡邊はま子版の歌詞 坂口淳作詞

ブンガワン・ソロ 水は青く 椰子の岸辺に 夢をさゝやく
ブンガワン・ソロ 鳥は歌ひ 神の恵みは とわに變らじ
なつかし流れは こゝろの揺り籠か 幼き昔に 夢はかへる
咲く花は 月のしづく いつもやさしい 青い流れよ
なつかし流れは こゝろの揺り籠か 幼き昔に 夢はかへる
咲く花は 月のしづく いつもやさしい 青い流れよ

インドネシア語の発音について

基本的にローマ字読みです。

「e」だけがちょっと異なり、日本語の「う」に近い音です。

なので、Bengawan は、「ベンガワン」ではなく「ブンガワン」です。